

相談支援班からのおたよりです



令和5年3月7日発行

支援連携グループ相談支援班

3月の和名は「弥生（やよい）」です。「弥」はより一層、「生」は生まれることを意味することから、「弥生」は春が近づき、草木が芽吹いていく様子を表します。3年生は卒業し、新しい社会人生活に向けての準備を、1、2年生は1年間のまとめをしながら次の年への目標をたて、新年度を迎える時期となります。あわただしい時期でもありますが、自然の生命力を感じたり触れたりするゆとりを持ちたいものです。

卒業しても成長を続けられる人になること



学校での様々な取り組みの目標は「成長を続けられる頑張りの土台を作ること」にあります。近い将来、社会に出たときに、自分の居場所を作って力を発揮していくために、周囲から見守ってもらえるような素直さや感謝する気持ちを表すことなどがが必要です。難しいことはありません。日々の挨拶、頑張る姿勢を見せること、やってもらって当然と思わず「ありがとう」と言えることなど、基本的なことばかりです。また、自分にとって耳の痛いことを言われたときに、その人を嫌ったり「やりたくない」と逃げ出したりすることのないよう、強い心を育てることも大切です。学校は失敗しても挽回できる場所です。社会では教えてくれないような小さなこと、当たり前なことを教えてもらえる場所です。今、この瞬間から意識して取り組んでいきましょう。

3年生のみなさんは、今まで身につけてきた力を存分に発揮していきましょう。そして困ったときには、一人で悩まず、周りの大人をたよってください。もちろん、学校にも相談に来てください。電話でもかまいません。きっと解決方法が見えてくるはずです。

1、2年生のみなさんは、当たり前のことは当たり前できるように、頑張りの土台を作っていきましょう。まずは、挨拶・返事、言葉遣い、身だしなみ……日常生活でできていないことは、社会に出たからと言ってすぐにはできません。今からですよ！



令和4年度 相談報告

令和4年度も、校内外の様々な相談に対応しました。校内では相談支援事業所へのつなぎ、医療機関への同行受診、日常生活の問題、友人関係の悩み、放課後の過ごし方への情報提供など、相談内容は多岐にわたりました。

校外では地域の中学校、高等学校への巡回相談を行いました。学習への問題、対人関係、家庭との連携など、ここでも様々な困り感がありました。



※専門職による巡回相談を含みます

巡回相談件数 (延べ数) 2月末日現在	横須賀市立中学校	33
	三浦市立中学校	24
	県立高等学校	6
	特別支援学校	3
	計	46

また、本校にも他校・他機関からST相談、PT相談、心理職相談、歯科医師相談などに来ていただきました。摂食のこと、体の動き、有効な支援方法など、時間をかけ生徒の観察を行い、いろいろな面からの助言をいただきました。こうしたことを共有し、日々の教育活動に生かしています。

センター推進協議会 湘南東部・横須賀ブロック会報告

神奈川県では、県立特別支援学校を5つのブロックに分け、「共に学び共に育つ」という理念のもと、特別支援学校のセンター的機能の在り方について協議しています。

岩戸養護学校は「湘南東部・横須賀ブロック」で、武山・藤沢・茅ヶ崎・鎌倉養護学校とともに地域支援を行っています。その一つがブロック内での専門職の活用です。また、三浦半島地区には武山と岩戸の県立特別支援学校があるため、小学校以下を武山が、中学校以上を岩戸が主に担当し、巡回相談などを行っています。ときには、岩戸と武山が協働することもあります。

令和4年度は協議会全体会のほかに、3回のブロック会が開催され、5校のグループリーダー、相談担当、専門職に分かれての情報共有や、困難ケースの事例検討会を行いました。ここではブロック内で活用できる共通のチラシを作成したり、学校ごとに異なる相談票を持ち寄り、よりよい相談票作成の参考にしたりしました。ブロック会の取り組むテーマは「共生社会実現に向けた地域支援機能の充実」という大きなものでしたが、小さなアイデアや言葉を積み重ねることによって、一歩ずつ前進しています。地域によって、学校によって取り組み方はそれぞれですが、目指すものは同じです。次年度は岩戸がブロックの代表校としてリードしていくことになっています。ぜひ、アイデアやご意見をお寄せください。